

「第72回全国植樹祭お野立所新築工事」デザイン提案コンペ 設計概要

1 趣旨

第72回全国植樹祭は、令和3(2021)年の春に「木を植えよう びわ湖も緑のしずくから」を大会テーマとして、甲賀市甲賀町大久保地先の「鹿深夢の森」で開催する。

大会のシンボルとなるお野立所については、ふるさと滋賀の地域特性である「森-川-里-湖」のつながりと、いにしえより培われてきた「森林」、「びわ湖」、「人(暮らし)」のかかわりを再確認し、将来を見据えながら森林を守り、活かし、これらの取組を支えることで、碧(あお)く輝くびわ湖と健全で緑豊かな森林を、次の世代、その次の世代へと持続的につないでいくという開催理念を踏まえた「滋賀県らしい」ものとする。

また、びわ湖材(びわ湖材産地証明制度に基づく県産材)をふんだんに使用して木の良さをPRし、木材利用の拡大を図り、本県の林業・木材産業の振興につなげる。

2 事業の内容

第72回全国植樹祭式典会場に設営する、天皇皇后両陛下の御座所となる「お野立所」のデザイン提案

【お野立所の概要】

工事名称	第72回全国植樹祭お野立所新築工事
建築場所	甲賀市甲賀町大久保地先(鹿深夢の森)
構造規模	木造平屋建て(仮設建築物) 延べ面積70㎡程度
用途	式典施設
建築工事費	30,000千円程度(消費税及び地方消費税の額を含む)
実施設計費用	2,100千円を上限とする(消費税及び地方消費税の額を含む)

3 「提案書」及び「建築工事費の概算見積書」の前提条件

- (1) 式典会場の位置、式典会場図面(参考図)は、別紙のとおりである。なお、式典会場イメージ案は参考提示であり、お野立所の形状等がこれにとられるものではない。
- (2) 「滋賀県らしさ」を感じられる施設となっていること。
- (3) お野立所は、木造平屋、床面積70㎡程度(間口10m、奥行き7m程度)で、室内に支柱を設置しないものとし、両陛下から式典参加者が見えやすいよう配慮する。また、降雨や耐風圧を考慮した構造とすること。
- (4) 床面の高さは、計画地盤面より50cm程度とする。
- (5) お野立所の背面および側面後方に、外部から内部を見通せないように壁または塀を設置すること。

- (6) お野立所の正面に2箇所、両側面に1箇所ずつおよび後面に1箇所の階段を設置し、後面の階段への出入りが前面の式典参加者から見えないように目隠し壁等を設置すること。
- (7) 両陛下が御着席される時間帯(4~6月中の午前11時~12時頃の間)の日射及び降雨を避ける必要があるため、屋根や底を持つ構造を基本とする。また、自然光のみで御席周辺の照度を確保すること。
- (8) 主要な部分の建築材料は、原則、びわ湖材およびその製品を使用すること。
- (9) 建築工事費の想定額は、30,000千円程度(消費税及び地方消費税の額を含む)とする。ただし、建築工事費のコスト縮減に努めるとともに、トータルコストの縮減に、十分配慮すること。
- (10) お野立所の建築工事は令和2年度中を想定している。
- (11) お野立所は式典会場中央部の円形広場の端部に設置して使用するため、建築工事による使用中止期間を最小限にとどめる必要がある。そのため、建築の全体工期や現地作業期間が可能な限り短くなるような構造及び施工方法とすること。
- (12) 開催後は解体し一部部材の再利用を想定しているため、開催後速やかに、かつ、低コストで解体が可能な構造とし、撤去後の跡地の補修がなるべく小規模となるよう配慮すること。
- (13) 関係法令等を遵守し、所要の措置を講じること

4 最優秀提案の選定

「第72回全国植樹祭お野立所新築工事」デザイン提案コンペ審査選定委員会を開催し、3案を選定し、それらを第72回全国植樹祭滋賀県実行委員会に推薦する。同委員会において、大会の開催理念および開催方針に基づき総合的に判断し、最も優れた提案1案を第72回全国植樹祭お野立所設計案として決定する。

【審査選定委員会】

滋賀県土木交通部建築課 課長
一般財団法人滋賀県建築住宅センター 理事長
びわ湖放送株式会社 代表取締役社長
滋賀県木材協会 会長
公益社団法人滋賀県建築士会 会長 以上 5名